



鹿田小だより



元気いっぱい 勉強こつこつ 親切ハートの
岡山市立鹿田小学校



令和2年度 第18号 2月1日



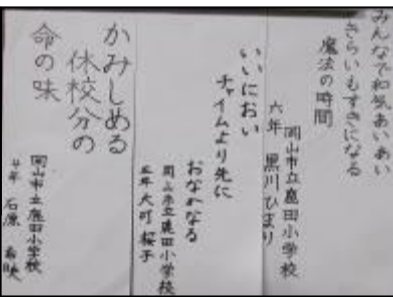
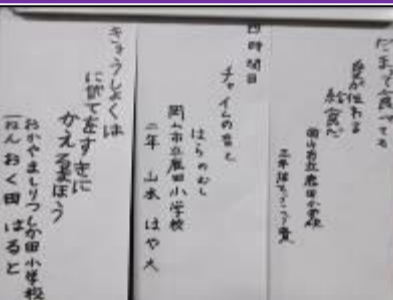
〇〇鬼をやっつけよう！



「鬼は～外，福は～内！」明日2月2日は節分です。各季節の始まりのことを「立春，立夏，立秋，立冬」と言いますが，その前日のことを「節分」と言っています。1年に4回ある節分ですが，現在では春分の前の日を指す言葉になっていますね。例年であれば節分は2月3日が多く，昨年まで37年続いていました。2月2日が節分になるのは実に124年ぶりだそうです。節分と言えば豆まきです。豆をまくことで「鬼（邪気）」を祓うのですが，今年は「鬼は外・・・」ではなく，「全集中 豆の呼吸 老の型！」などと言いながら，子どもたちは豆をまくのでしょうか。「怠け鬼」「泣き虫鬼」「怒りんぼ鬼」など鬼にもいろいろありますが，さて今年はどうな鬼をやっつけるのでしょうか。もう一つ，節分には恵方巻を食べるという習慣がありますが，その歴史はあまり古くはなく，全国的に広まったのは1980年ごろからのようです。恵方は恵方巻だけでなく，「その方向に向かってすることはすべて吉となる。」とされています。今年の恵方は「南南東（やや南）」です。

給食週間 1/25（月）～29（金）

給食週間の取組として，給食に関する作品募集があり，各クラスから優秀な作品を1点ずつ選んで出品しました。また期間中は，給食に関する話やクイズなどを給食委員会が放送したり，各クラスで「毎日完食しよう。」「苦手なものでも一口食べよう。」など給食のめあてを決め，その達成に向けて頑張ったりしました。食に関する意識を高めるきっかけになればと思います。



4年 キッズ認知症サポーター養成講座

1月27日（水）に岡山市北区中央地域包括センターの方や民生委員の方にお越しいただき，キッズ認知症サポーター養成講座を行いました。

【2校時】～認知症とは～

地域包括センターの方から認知症についてのお話を聞きました。認知症とは脳がうまく働かなくなり，物忘れが増えたり，料理や家事がてきぱきとできなくなったりして，生活が難しくなる病気であることや，認知症の方への接し方などを詳しく教えていただきました。その中で，認知症の方へどのようにかかわればよいかについての劇を観ました。認知症のおばあさんが散歩に出たものの場所が分からなくなり，困っているところに鹿田小学校の子どもたちがやってくるという設定です。おばあさん役で私も出演しました。認知症サポーターの証であるオレンジリングと地域の方手作りの「ロボ隊長」（認知症サポーターのマスコット）を全員にいただきました。



【3校時】～自分たちにできることを考えよう～

まず民生委員の方から，民生委員の仕事についてのお話を聞きました。その後，キッズ認知症サポーター（認知症の方を支える子どもたち）として自分たちに何ができるかを考えました。民生委員の方もグループに入ってください一緒に考えました。「日ごろからあいさつをする。」「困っている人には優しく声をかける。」「ポスターをかく。」「手紙を書く。」などの意見が出されました。今後さらに話し合いを進め，実践につなげたいと考えています。



2年生九九マスター

休み時間に教室で九九唱えを聞いています。九九は算数の基本中の基本で，2年生の間に必ずマスターしてほしいと思います。合格した人には全員「九九マスター認定証」を渡すことにしています。頑張れ，2年生！！



非行防止教室(4・5年)

1月19日（火）に岡山県警生活安全課から非行防止専門員の守屋さんに来ていただき，非行防止教室を行いました。非行で補導された未成年のうち，約半数が万引きだそうです。万引きをすることでどれだけ多くの人に迷惑をかけるかを教えていただきました。そのあとは「スマホの安全な使い方教室」のDVDを視聴し，口の書き込みや写真のアップなど，使い方によっては大変危険だということが分かりました。



学校長のつぶやき ～大逆転～

1月2日から3日にかけて，毎年必ず「箱根駅伝」を観ます。どこの大学を応援するということはないのですが，1本のたすきを途切れることなく繋いでいこうと，力いっぱい走る姿にはいつも感動させられます。今年は特に最終10区での大逆転，見応えがありました。駒澤大学の最終走者である石川選手がたすきを受け取ったとき，前を走る創価大学とは3分19秒の差がありました。誰もが「逆転は無理だろう。」と思いました。なぜなら10区での逆転は20年ぶり，さらに10区での3分以上の差からの逆転は84年ぶりとなるからです。それでも石川選手はじりじりと差を縮め，ついに残り2キロで逆転し，1位でゴールテープを切ったのです。誰もが思いもしなかった大逆転。それを可能にしたのは，技術でも体力でもなく，「最後まで決してあきらめない」という強い気持ちだったのだと思います。

